

水稻生育情報 (No.2)

平成27年6月12日
県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)
TEL:0296-24-9206

【生育概況】

6月上旬の気温は平年よりも高く、日照時間が多くなっています。そのため、生育が進んでおり、草丈は平年並みか高く、茎数は平年並みから多く、葉色はやや淡いから平年並みとなっています。

全域においてイネドロオウムシによる食害が発生しています。発生が激しい場合は減収する可能性が高まるので、圃場を見て適宜防除してください。

表1 水稻定点調査結果(6月10日時点)

調査地点	田植え日 月/日	植付株数 株/坪	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色	
					葉色版	SPAD値
下館市	5月7日	57	44.8	456	4.5	38.3
一本松	(5月2日)	(65)	(38.6)	(508)	(4.8)	(39.9)
下妻市	5月2日	42	46.9	493	5.3	41.0
加養	(5月2日)	(43)	(40.2)	(380)	(5.2)	(42.2)
桜川市	5月17日	61	34.0	393	4.3	40.4
元岩瀬	(5月14日)	(59)	(30.2)	(247)	(4.9)	(38.5)
桜川市	5月7日	44	33.0	473	4.7	40.6
真壁町飯塚	(5月7日)	(58)	(36.7)	(417)	(4.8)	(40.6)

()内は平成22~26年(5カ年平均値) ※桜川市真壁町飯塚は過去2カ年の平均値

【これからの栽培管理のポイント】

・イネ縞葉枯病について

近年、県西地域においてイネ縞葉枯病の発生が拡大しています。この病気は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病です。発病した後の治療方法はありません。

ウンカは麦類の収穫後に水稻に飛来し(6月上旬から中旬頃)、ウイルスを保毒したヒメトビウンカがイネを吸汁して感染します。保毒していないウンカが感染株を吸汁することで、新たな保毒ウンカが発生し、この繰り返しで被害が拡大していきます。

感染すると葉に縞状の斑紋が発生し、分けつ期には葉先がこより状に垂れ下がり枯死します(図1)。また、出穂期での発生は、穂の出すくみが発生し、出穂した場合でも奇形や不稔となり減収に繋がります。

・イネ縞葉枯れ病の防除について。

茨城県病害虫防除所によると、県西地域のヒメトビウンカの発生は平年に比べ多く、生長が早いとの調査結果が出ています。

ウンカ類に登録のある育苗箱施薬を行わなかった場合は、ヒメトビウンカに登録のある薬剤で本田防除を行いましょう。

特に、被害が大きい地域では育苗箱施薬と本田防除を併せて行うことが望ましいです。なお、本田での防除適期は6月下旬頃となります。

防除方法や薬剤等に関する不明な点がありましたら、お近くのJA各支店か筑西地域農業改良普及センターにお問い合わせください。



図1 イネ縞葉枯病の症状